

論説

2021・12・7

理念・熱意が見えない

首相所信表明

あの「石原発」された臨時国会で率て田文雄首相が所信表明演説を行つた。新規ワロナ・カイルス感染症対策や経済・社会保護、外交・安全保障などの当面する課題を踏まえ、とにかく、いよいよ社会問題回復するのか、理念が見えなかった。

首相は「新しい資本主義」の説明に長い時間を使った。新自由主義で構造改革が拡大したところ、新しく資本主義を具体化すれば、「成長も分配も実現する」と強調。「数字時代」の度の原創的挑戦」と立派に叫んだ。

掛け声は胸張ったが、内容のゆけば、実情・舊政権が取り組んでいた政策の延長線上に在る。

例えば、通商政策の整備で地方を活性化させる「少シタル田園都市国際構想」は、かつての「地方創生」との連続性はない。インベーションの推進、クリーンエネルギーへの投資などの成長戦略、質上げをめざすとする分配政策も、過去の政策が手掛けてきたとした。

新しい資本主義が税政政策などしても、新味も熱意も感じられないのは、首相がそうした政策で社会をどうするか、どんな未来を描画しているのが、具体像を示さず留っているからではないか。

首相は先の自民党総裁選挙では、アベノミクスを修正して「分配」「賃銀の効率化」という形で示したが、どんな社会を目標にするかを悟りを持って語らなければ、これまでの政策が取り組んでいた政策に「新しい」という形容詞をつけた。結論は安堵感三元首相が「配分」と実行計画を兼ねまじめ方針を示したが、どんなん未来を描画するにも所信表明では触れなかつた。

首相は向い議長を務める新しい資本主義実現会議で、全体像回帰して、「成長と分配の好循環」に回帰」、方針性があいまいになつた。結論は、掲げて「た金融所得アベノミクスを修正して「分配」「賃銀の効率化」という形で示したが、どんな社会を目標にするかを悟りを持って語らなければ、これまでの政策が取り組んでいた政策に「新しい」という形容詞を付した。結論は安堵感三元首相が「配分」と実行計画を兼ねまじめ方針を示したが、どんなん未来を描画するにも所信表明では触れなかつた。

臨時国会では衆院選後初めて衆相手国議場内で臨む、「敵基地攻撃能力の保有」検討を明言した。先制攻撃を意味し、憲法や国際法に違反しかねない、「敵基地攻撃能力の保有」検討を使いつぶしただけにあらかねない。たゞには疑惑ではなかつたが、臨時国会では衆院選後初めて衆議院で予算審査会が開かれ、本格議論が行われる。どんな社会、政治を目指すのか、過去の政策とは何が違うのか、範囲は広いの葉丁寧に語るべきである。